

基調講演

「土偶と土面が語る縄文の世界」

長沼 孝(ながぬま・たかし)氏

(北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課長)

1954年札幌市生まれ。静岡大学卒業後、北海道教育委員会に勤務し、北海道内の埋蔵文化財保護行政・発掘調査に従事。縄文遺跡群の世界文化遺産登録推進については、取組の初期段階から関わり、本年4月からは埋蔵文化財及び文化財全般にかかる保護行政、道立美術館ほか9つの所管施設の管理・運営などを担当。



講演・映像・詩

「縄文芸術の昔、今、未来」

原子 修(はらこ・おさむ)氏

(詩人、札幌大学名誉教授、JAM(縄文芸術家集団)代表、おたる縄文の集いの会代表)

1932年函館市生まれ。先祖が津軽・五所川原の原子遺跡にまつわる縄文の系譜を引いているようで、創作する詩や詩劇は一貫して縄文がテーマ。現在までに詩劇52作品116ステージを国内外で公演。日本詩人クラブ賞、現代ポイエーシス賞、北海道文化賞、札幌芸術賞など受賞。



縄文琴

曾山 良一(そやま・りょういち)氏

琴、尺八、ギターで北海道音楽をめざすグループ「遠TONE音」のギターリストとして、日本国内はもとより香港、ロシア、スイスでも公演。最新作のアルバム「遠TONE音」はアメリカ全土でも発売。小樽の遺跡から発掘された琴状の木製品にヒントを得て、縄文琴を創案した。



縄文太鼓

茂呂 剛伸(もろ・ごうしん)氏

幼少より和太鼓奏者として世界各地で演奏活動を行う。西アフリカのガーナに1年間渡り、演奏と太鼓制作を学ぶ。原子修氏との出会いから、縄文土器の複製にエゾシカの革を張った「縄文太鼓」を創作し演奏する。2013年にはアルバム「JOMON DJEMBE 甲午」をリリース。



アイヌ民族の歌

澤井 アク(さわい・あく)氏

本別町生まれ。父母からアイヌ民族の歌など貴重な文化を伝承された。社団法人北海道アイヌ協会理事、国際部会長や札幌支部副支部長などを経て、現在は札幌でアイヌ語講師を務めるほか、コシャミンカムイノミ主宰、アイヌアカデミーひくま会長などを務める。



アイヌ民族の口琴

石井 ポンペ(いしい・ほんぺ)氏

穂別村(現むかわ町)生まれ。1969年4月、札幌市職員環境局、アイヌ文化交流センター勤務。この間、北海道アイヌ協会札幌支部長、札幌ウボボ保存会副会長などを歴任。アイヌ文化奨励賞受賞。口琴(ムックリ)をはじめアイヌ民族楽器の名手。



野焼き縄文土器について

前田 隆護(まえだ・りゅうご)氏

2005年～2013年まで毎年、余市縄文野焼き祭りに参加。2009年にアート工房開拓舎を設立し、オリジナルな器作りに専念。現在小樽縄文人の会代表、おたる縄文の集いの会事務局長。



野焼き縄文土器展

